

## 2. バンダールと不思議な婦人（ミンダナオ）

何百年も前のこと、ティルライズとして知られるミンダナオからの部族は、トゥルスと呼ばれる神を礼拝していました。

毎年、聖別された日に、トゥルスは黄金の土の塊を東の方からティルライズに送ってきました。神の選んだ信奉者たちは、この黄金の土に踏み入り、それは天国まで持ち上がり、彼らを楽園に運ぶのでした。

しかし、多くの年が過ぎて、黄金の土の塊は東から運ばれて来なくなりました。ティルライズは、どうして、トゥルスが土を運んでくるのをやめたのか、どうして、彼らはもはや神の楽園に運ばれないのか不思議に思っていました。長老は、長く、厳しく考えて、彼の賢い説明をしました。「トゥルスはあなたがたのことで怒っている。」と彼は彼の民に告げました。「トゥルスは、あなたがたにこの土地を与え、そこの世話をするようにあなたがたに命じたのです。あなたの必要なものだけ取るように命じたのです。ところが年が経つにつれて、あなたは、神と自然の女神が愛して創造したその土地を破壊したのです。あなたは魚を獲るために、毒と火薬を使って、さんご礁を破壊しました。あなたの浪費によって、川や海に毒が流されました。あなたは貴重な森の木を過度に材料獲得のために切り倒しました。あなたは、自分の火を使って、空気を汚しました。あなたは、スポーツや娯楽のために、狩猟で野原や森の動物を殺しました。」

長老の警告の言葉を聞いた人びとはびっくり仰天しました。「どうしてトゥルスはお前たちを彼の国へ迎え入れたのか？」と長老は尋ねました。「お前たちは、自分たちが依存していた彼の信頼を裏切り、母なる女神の機嫌を損ねてきたではないか。尊大で、自己中心、貪欲で実利主義のやつらを天国へ受け入れる神などいるわけがない。罰として、トゥルスは黄金の土を東から運ぶのを止めた。さあ、お前たちは天国へ入るために、死ななければならない。母なる女神は、お前たちの悪い体を使って、土地の資源を満たそうとするのだ。お前たちがむなみに破壊した土地を。お前の肉体は、蛆虫やミミズや、昆虫やそのほかの生き物の食べ物になるんだ。そして、お前たちの骨は、土の肥料になる。しかし、お前たちの清められた霊は空気のように軽いものになる。これはお前たちの体から出て、天国へ昇って行く。この魂は天国へ受け入れられる。なぜなら、それは邪悪な物理的願いを満たす必要がないからだ。」

## 2. バンダールと不思議な婦人

人びとは、長老の言葉を聞いて、恥じて顔を背けました。彼らが出てゆく前に、彼は最後の忠告をしました。「もし、お前たちが、トゥルスにもう一度黄金の土を東から運んでもらい、肉体的な状態で天国に入りたいなら、お前たちの邪悪で、破壊的な生活を変えなければならない。自然を尊重し、お互いを尊重しなければならない。おそらく、そうするとお前たちはトゥルスの尊敬を受けられるだろう。」

長老の言葉は、ティルライズの上にくらかの活動を起こしたが、彼らの破壊的な生き方を変えることはほとんどなかったのです。男というのは負けん気の強い存在で、彼らの土地の、植物も動物も、彼らは破壊し続け、大気と水を毒で汚染させ、彼らの向こう見ずの行動の取り返しのつかない結果に注意をはらわなかったのです。

何百年も経過して、人びとはもう彼らの長老の知恵の言葉を忘れました。しかし、トゥルスは忍耐強い、情け深い神であり、彼はついにティルライズに人間の姿で天国に入る最後の機会を与える決断をしました。

トゥルスはバンダールという名前の若者にチャンスを与えました。彼はたくましく、優しい性格の男でした。不幸なことに、バンダールは恐ろしい苦しみを経験していました。彼の顔と体全体は、醜い発疹と、はれもの、傷がありました。土地の人はみんな彼を避けて、彼の両親でさえ彼を遠ざけていました。そのことは彼を大変悲しくさせました。

もうこれ以上仲間の男たちの残酷さに立ち向かうことができず、バンダールはついに人々の中から出て行って、独居生活をする決断をしました。そこでは、もはやだれも彼の醜いことをあざけるようなことはありません。彼は何日も何日も歩いて、ついに大きな森に来ました。そこは人びとのいる所からは、遠く離れています。「これは、私の新しい家のための完璧な場所になるぞ。」と彼はひとりで微笑みました。

バンダールは離れた場所を見つけました。そこは深い森の中で、大きなアカシアの木の下で、彼の新居となる小屋を建てることにしました。

彼はすぐに大きな木の下に、彼の小屋を建てました。それは彼の生涯で最初の家でした。彼は安全と満足を感じ始めました。彼の周りには、彼をあざける者はだれもいません。

## フィリピンの神話と伝説

毎日、彼は近くの川に行きました。そこで、彼は新鮮な魚、カニ、エビをとりました。彼はまた、森に野生の動物をとるためのわなをしかけました。森の多くの木も、沢山の種類の果物、木の実、いちごの種類、そして森の大地に野菜も育ちました。彼は食べ物に事欠くことはありませんでした。

彼の満足した新しい家と新しい生活にもかかわらず、バンダールはまだ、腫物や傷からのげしいかゆみに苦しみ、しばしば夜に目を覚ますことができました。彼の苦しみを癒すことができさえすれば、バンダールの生活は完璧なものになるでしょう。

森での動物へのわなで仕事に疲れていたある日、バンダールは大きなアカシアの木の下で眠っていました。少しして、彼はねむい目をあけて、彼の前に、奇妙な白い霧のような塊が漂っているのを見ました。彼は目をこすってよく見ましたが、彼は夢を見ているわけではありません。彼がもう一度見ると、美しい女性が霧の中から出てきて、彼の前に立ちましたが、それは地上から少し浮いていました。

バンダールは立ちすくんで、その女性を見ました。彼女はまったく白く輝く、流れるような服を着て、彼女の天使のような肌は、内側から輝くように見えました。彼女の流れるような黒い髪はほとんど足首まで届くほどでした。彼女の頭の上にはすばらしい金の王冠があり、高価な宝石がはめ込まれていました。彼女は、絶世の恵みと美の存在でした。それを見て恋に落ちない者があるでしょうか。

するとその美しい女性はびっくりしたバンダールに暖かく微笑みかけ、静かな声で言いました。「驚かないで、バンダール。私はあなたを助けるためにここに遣わされました。あなたは、太陽の下にある、山の下の海を探しなさい。そこであなたは沐浴をしなければなりません。そうすればあなたの苦しみは取り除かれるでしょう。」

バンダールはそれにどう答えたらいいかわかりませんでした。しかし、ついに彼はためらった声で言いました。「お嬢様、そんなところを私はどこに見つけ出せるでしょうか？」

その女性は微笑んで答えました。「それは遠くはありません。あなたの小屋から、7歩東に行ってください。うまくいくといいですね。」すると彼女はきらめき始め、霧の中に消えて行きました。

バンダールは、その不思議な女性に沢山の質問をしたかったのですが、彼が口を開く前に、その女

性と霧は、消えてしまっていました。

バンダールは必死になって、美しい幻が彼に教えてくれたことを思い出しました。彼は家の前に立って、東に向かって七歩歩きました。あの婦人が教えたとおりに。しかし、それは彼を川の端に連れてゆきだけで、そこには山の印もありません。おそらく彼は女性の指示を間違えて理解したのでしょう。「もし、彼女の言ったのが70歩だったらどうだろう。」彼は思案しました。「あるいは、七歩を七倍するというではないか？」今やバンダールは、すっかり混乱して、もっと彼女と話ができたらなあ、とっていました。

ついに彼は東に向かって、そこで起こることを見るために、歩き続けることを決断しました。彼は歩き続けました。彼は分も時間も計りませんでした。ついにちょうど7時間歩いたところで、彼は輝く川にきました。川の一方の側に、高い木の横に囲まれた素晴らしい岩が立っていました。太陽の光は木々をとおして指し込み、川の表面に跳ね返り、踊る日光でその場所を満たし、真の魔法の環境を創造しました。

「ここに違いない。」と彼は自分自身に言い聞かせました。彼はあの不思議な婦人が彼に言ったことを繰り返しました。「山の下にある海。太陽のもと。岩は山を象徴するに違いない。そして川は海を象徴するに違いない。」

確かに、彼は美しい女性が表現した場所を見つけたのです。バンダールは服を脱いで、沐浴するために川に歩いてゆきました。ひんやりとした水は大変さわやかにしてくれて、バンダールは体全体を川に浸しました。長い時間、彼はくつろいで水の中にいました。太陽が暮れかけたので、彼は川を出て、高い木の陰に横たわり、眠ってしまいました。

次の朝、バンダールは目を覚ましました。彼はすぐに彼の体を調べました。しかし、発疹や傷はまだそこにありました。彼は急いで川へ押しかけ、彼の顔を水にうつして見ました。しかし、発疹と傷はまだそこにありました。「おそらく不思議な婦人は結局私の夢の中の存在だったんだ。」彼は自分自身そう考えました。「実際に存在しない女性の指示に従うとは、私は何と愚かな存在か。」

がっかりしたバンダールは、疲れて、森にある彼の小屋へ帰って行きました。

ある日、森の彼の家に帰ってちょうど7日目でしたが、バンダールは、小屋の外の、ハンモックの

## フィリピンの神話と伝説

中で、昼寝をしていました。彼は昼寝から覚めました。彼はその時、小鳥がさえずるのをやめて、空気が不気味な静けさに満たされているのがわかりました。

彼はこの世のものとも思えない白い霧が彼の前に漂っているのを見ました。そして、前と同じように、美しい、不思議な婦人が霧から出てきて驚いているバンダールの前で浮いていました。

その婦人はバンダールに向かって微笑みました。「あなたは自分自身で証明しましたね、バンダール。」と彼女は言いました。「あなたの決心と、根気強さは、報われるでしょう。あなたの苦痛を癒すだけでなく、私はあなたの生活と良くし、あなたに魔法の力を与えます。彼女は手を挙げました。「今日から、あなたの川に、あなたの食べるためだけでなく、すべての村人の食用のためにたくさんの魚が溢れます。あなたが農業をすると、今までよりも沢山の作物がとれます。あなたも、あなたの村の人々ももはや飢えることはありません。私は、またあなたに人びとの心の中を読み取る特別な力を与えます。しかし、あなたはこの力を良いことに使い、あなたの民の心を清めて、純粋にし、彼らをもう一度、慎ましやかに、礼儀正しい人間にしてください。私があなたのこれらの力を与えるので、あなたは彼らの生活を改めるように努め、もう一度、人間の姿で天国に入れるようにするのです。」

不思議な女性は腕を下ろし、バンダールを見ました。「ひとつのことを私と約束してください。」と彼女は言いました。「あなたは私に約束しなければなりません。あなたはこの世の欲情であなたを誘惑する女性を受け入れてはいけません。あなたがそのような誘惑に負けたら、あなたの身に、何か恐ろしいことが起こるでしょう。」

バンダールは美しい女性に微笑みました。「私はあなたに約束します。」と彼は言いました。

不思議な婦人はバンダールの目に、白い霧となって吹いて行き、彼はもう一度深く眠りました。

数時間後、バンダールが眠り方覚めると、彼は生活の変化に驚きました。彼の発疹や傷は彼の顔や体から完全に消えていました。うれしくなったバンダールはすぐに彼の小屋を出て、森を抜け、彼の村までずっと走り続けました。

彼が最初にやったことは、両親の家に帰ったことです。彼らは息子がついに苦しみが癒されたことに驚きました。彼らは腕を広げて息子の帰還を歓迎

迎し、喜びの涙を流しました。

時間がたつうちに、バンダールは村で好感を持たれ、評判のいい人物になりました。彼を避け、除け者にしていた人々は、彼を尊敬するようになり、それは彼と彼の魔法の力が、その地域に収穫と繁栄をもたらしてくれたからです。

バンダールの名声は、すぐに土地に広がり、土地中の人々が、彼を訪ねてきて、彼の魔法の力に驚くまでに時間はかかりませんでした。彼らは贈り物をして、すぐにバンダールは豊かで影響力のある男になりました。すべての人が彼と親しくなることを願い、彼に繁栄を確かなものにしてもらいたかったのです。彼らは、彼のことを神のように礼拝するようになり、ました。

バンダールは新しく発見した財産と名声で夢中になり、不思議な婦人によって命じられた使命のことをすぐに忘れてしまいました。彼はその特別な力を彼自身と彼の人々を金持ちにするために使いましたが、彼らの心を清め、純粋にすること、そして慎ましやかに、礼儀正しくするために努力することをすっかり忘れていました。そして、母なる自然の女神と神トゥルスに彼らの繁栄を感謝するかわりに、土地の人びとは、バンダールだけを賛美していました。

少しして、名声と幸福とお世辞は、バンダールを十分満足させなくなりました。彼はもっと別の者を、妻を探すようになり、美しい婦人と約束したことを無視したのです。

バンダールは、土地の最も美しい少女を見つけました。そして彼女に、彼の妻になるように頼みました。彼女はすてきなこの男性と結婚することに同意し、素晴らしい結婚式の後、豪華な宴があり、バンダールと彼の新妻は、バンダールの宮殿のような家に退きました。彼は新しい生活で幸せでした。

夜遅く、バンダールは彼の愛する妻の横で寝ていました。不思議な婦人が彼の夢に現れました。それは悪夢のようなものでした。美しい女性はバンダールに怒っていたのです。彼女の目は赤く光り、彼女のほっそりした指は彼を指して、叫びました。「お前は、私とトゥルスを裏切ったんだ、バンダール。私が与えた特別な力を間違っ、自分自身の利益のために使った。そして、お前は私との個人的な約束、お前を誘惑する女に気持ちを許さないことを、忘れてしまった。お前の裏切りが、報われるだろう。」

## フィリピンの神話と伝説

不思議な女性は、深い怒りの呼吸のために、一息つき、彼女の手を下ろし、バンダールのびっくりした目を直視しました。「しばらく待っているがいい、バンダール。」と言って彼女は続けました。「今こそ、私はお前の魔法の力を剥奪してやらなければならない。もし、お前が私の教えたとおりにやっていたなら、トゥルスは、また黄金の土を東から送り、お前の民はまた人間の形で天国に入れただろうに。そして、その天国で、私はお前の妻になろうと思っていたのに。」

不思議な女性は一瞬のうちに消えて、バンダールはすぐに目を開きました。彼の体は冷たい服の中で震えていました。彼は自分の体にかゆみを感じ始めました。彼は自分の皮膚がまた醜い傷と発疹に覆われているのを見ました。彼はベッドから飛び出し、新妻を起こすことなく、鏡の前に走りました。そこで彼が見たものは一度はすてきな顔だった男が、また発疹と傷に覆われた顔でした。

バンダールは叫びながら、彼の家からずっと深い森に走り帰ってゆきました。その破滅的な日から後、バンダールを見たものはだれもいません。

バンダールは、彼の民を贖うこと、またお互いや、彼らの土地、彼らの神を尊敬することを教えることを特別な機会を与えられていました。しかし、美しい、不思議な婦人から彼に与えられた務めを、惨めに失敗してしまいました。そして、ティルライズたちは東からの黄金の土をもう二度と見なかったのです。